

国際ロータリー第2780地区  
ロータリー財団100周年記念誌

# ロータリー財団が変えた人生

THE ROTARY FOUNDATION



YEARS OF DOING GOOD IN THE WORLD

## Lives Changed

国際ロータリー第2780地区 財団100周年委員会

留学年度：1992～1993 留学国：ドイツ 留学機関：ミュンヘン国立音楽大学  
専攻：ピアノ スポンサークラブ：茅ヶ崎中央RC ホストクラブ：Dachau RC  
現職：武蔵野音楽大学講師、東京都立総合芸術高校講師、ピアニスト

## 『ロータリーで得られた絆と音楽で』

可 児 亜 理

ロータリー財団奨学生として留学させて頂いた事による私の人生への影響は、現在進行形で大変大きいものです。留学時代、ロータリーの繋がりのおかげの安心感のもと手厚くサポート頂き、勉学に集中できた事は勿論、その後のドイツや日本での人間関係においても素晴らしい絆を得させて頂いたと思っております。数々の忘れ難い思い出がありますが、私は音楽家として演奏を通し、聴き手の心と繋がれたかなと感じられた時の充足感を何よりのビタミンにしております。しかし、一人の力だけでなく、ロータリー財団奨学生出身のピアニスト仲間4人で結成した8手ピアノアンサンブルの演奏活動は、大きなプロジェクトへと発展する事ができました。(2012年 Artis pianoensemble アーティスピアノアンサンブルを結成)

私達は同じミュンヘン国立音大にロータリー財団奨学生として留学し、ドイツでは同じホストカウンセラー(Dachau R.C, Wolfgang Gott氏)のもとでサポートをいただいた事により、留学年度が少しずつ違うにも拘らず知り合うチャンスがあったのです。

Gott氏には「ロータリー4人姉妹の子供達」と呼ばれていますが、アンサンブル結成時には、ごく自然に演奏活動のモットーにロータリーの奉仕の精神を忘れずに、出来る事を活動していこうとなりました。

2013年3月のミュンヘン、マインツでの公演で集まった東日本大震災への寄付金は、更にロータリーインターナショナル本部からのマッチング・グラントのシステムのお力を頂き大きな資金となり、宮城県雄勝中学校の和太鼓の寄贈や、その地域の伝承芸能についての解説本の制作に役立てて頂く事ができました。

2012年横浜公演、2015年横須賀公演においても、皆様にたくさんのお力添えを頂きながら、これからの更なる活動の為にエールを送って頂いた事、感謝しております。

いつか和太鼓を叩く雄勝の子供達と8手ピアノの共演が出来たらと夢見て、今年は遂に和太鼓とのコラボ作品を委嘱して書いてもらいました。2018年3月に、ドイツ公演(コブレンツ、ケルン)にて和太鼓奏者TAKUYAさんとこの作品を発表して参ります。

素晴らしい友との出会いから始まり、その活動を支えてくださる人達の助けがあって、奉仕の理想の輪が広がっていける事への感謝を忘れず、これからも研鑽しながら歩みを進めていきたいと思っております。



第2780地区でチャリティーコンサート(収益を財団へ寄付)



チャリティーコンサート(ドイツ各地で開催)で得た収益で雄勝中学校へ和太鼓を寄贈

留学年度：2015～2016 <<グローバル補助金 奨学生>>

留学国：イギリス 留学機関：マンチェスター大学 専攻：国際開発学（紛争）

スポンサークラブ：茅ヶ崎中央RC ホストクラブ：Wilmslow Dean RC

現職：カーターセンター（アメリカNGO）

## 『夢への道を切り開いたイギリス留学』

片岡 舞

私は茅ヶ崎中央ロータリークラブのご推薦をいただいて、グローバル補助金の奨学生として2015年の9月から1年間、イギリスのマンチェスター大学大学院にて国際開発学を勉強いたしました。私はこの大学で自分の関心事である紛争や平和構築に焦点を当てた修士のプログラムを選択しました。大学院のプログラム終了直後からアメリカのアトランタに移り、現在はカーターセンターという国際NGOでインターンとして勤務しています。そして、2017年の8月からは、日本の開発コンサルタント会社の平和構築部門で働く予定です。

カーターセンターは、アメリカの元大統領ジミー・カーターの設立したNGOで、公衆衛生や紛争解決の分野で様々なプロジェクトを行っています。私は希望通り紛争解決プログラムに配属され、スーダンと南スーダンにおける紛争解決のためのプロジェクトの補佐業務を行っています。2016年の12月にはスーダンの出張に同行させていただき、政府と反政府勢力、市民社会組織それぞれと、カーターセンター側の専門家たちとの和平に関する意見交換ワークショップを開催しました。

私は大学卒業後、就職をせずに大学院に進学したため、卒業後の進路について不安もありました。しかし、大学院進学後に開発学分野での就職活動を開始してみると、修士号が必要条件であるポストが多い上、修士課程に在籍することで専門性を評価していただけるようになりました。また、実際にカーターセンターで働き始めてからは、仕事の中でもリサーチ業務や英文の書類作成において大学院時代に磨いたスキルを活かす機会も多く、実務でも修士で学んだことが役立っていると感じます。

留学中は初めての海外生活に大学院の課題などで苦労することも多くありましたが、スポンサークラブのみなさんに応援して下さったことや、ホストクラブのカウンセラーの方が親切に気にかけて下さったおかげで乗り越えることができました。留学が終了した後も、アメリカでロータリーの方々に偶然出会って交流する機会があったり、スポンサークラブの方々には変わらず自分の夢を応援して下さり、ロータリーのつながりに感謝するばかりです。今回100周年ということで、これからもこのような形でロータリーの輪が広がっていくことを願っています。